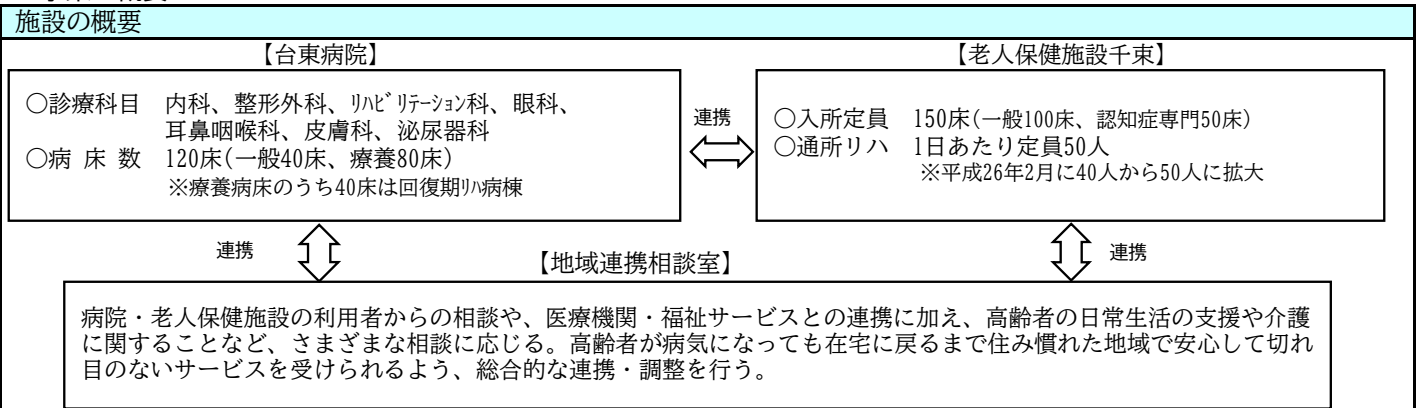


令和8年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(令和7年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区(病院所管課:健康部健康課、老健所管課:福祉部高齢福祉課)
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要



施設の基本理念	
○	高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。
○	高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。
○	高齢者が施設や在宅で必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。
○	安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。
○	快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。
○	『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

基本方針	
台東病院	○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活が送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

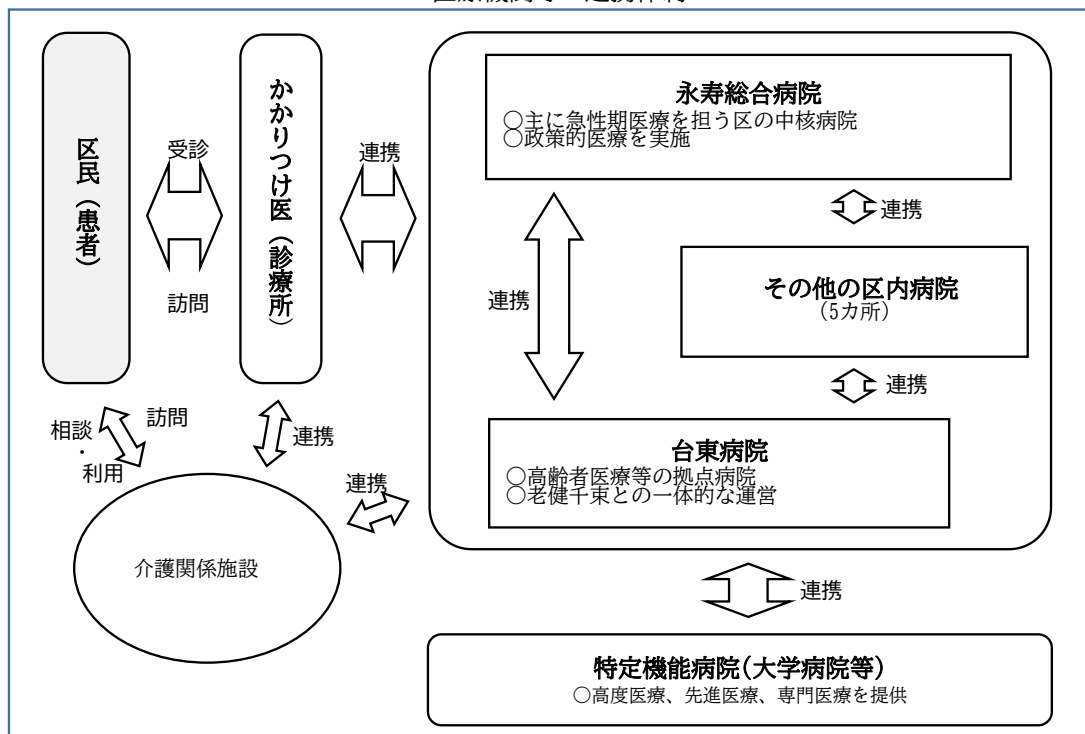
運営理念

『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します

運営基本方針

- 高齢者医療に力をいれます
- 在宅医療を支援します
- まずは受け入れるという姿勢を持ちます
- 地域と連携してサービスを提供します
- 医療に恵まれない地域の支援を行います

<医療機関等の連携体制>



3 事業の現況とその推移

(1)経営の状況

(単位:千円)

区分			R5年度	R6年度	R7年度	前年度比	主な計上科目
台東病院	収益	医業収益	2,140,160	2,155,063	1,846,905	△ 308,158	入院・外来収益等
		医業外収益	111,633	101,710	359,648	257,938	指定管理料・補助金等
		合計	2,251,793	2,256,773	2,206,553	△ 50,220	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	243,665	224,965	
	費用	医業費用	2,235,575	2,263,933	2,056,631	△ 207,302	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	12,123	16,622	39,698	23,076	その他の事業外費用
		合計	2,247,698	2,280,554	2,096,329	△ 184,225	
	損益	医業損益	△ 95,415	△ 108,869	△ 209,726	△ 100,857	—
		医業外損益	99,510	85,088	319,950	234,862	—
		合計	4,095	△ 23,781	110,224	134,005	
老健千束	収益	事業収益	936,951	1,049,398	959,157	△ 90,241	介護保険施設介護料収益
		事業外収益	11,509	24,136	114,982	90,846	受託収益・補助金等
		合計	948,460	1,073,534	1,074,139	605	
		(うち指定管理料)	0	0	80,850	80,850	—
	費用	事業費用	966,957	993,427	1,005,731	12,304	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	9,312	20,956	50,617	29,661	その他の事業外費用
		合計	976,269	1,014,383	1,056,348	41,965	
	損益	事業損益	△ 30,006	55,971	△ 46,574	△ 102,545	—
		事業外損益	2,197	3,180	64,365	61,185	—
		合計	△ 27,809	59,151	17,791	△ 41,360	
全体	収益	事業収益	3,077,111	3,204,462	2,806,062	△ 398,400	
		事業外収益	123,142	125,846	474,630	348,784	
		合計	3,200,253	3,330,308	3,280,692	△ 49,616	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	324,515	305,815	
	費用	事業費用	3,202,532	3,257,360	3,062,362	△ 194,998	
		事業外費用	21,435	37,578	90,315	52,737	
		合計	3,223,967	3,294,938	3,152,677	△ 142,261	
	損益	事業損益	△ 125,421	△ 52,898	△ 256,300	△ 203,402	
		事業外損益	101,707	88,268	384,315	296,047	
		合計	△ 23,714	35,370	128,015	92,645	
収支の概要							
台東病院	前年度と比べ、医業収益は空調設備等改修工事の病棟閉鎖の影響により、3億816万円(14.3%)減の18億4,691万円、医業費用は2億730万円(9.2%)減の20億5,663万円で、医業損益は1億86万円(92.6%)減の2億973万円の赤字となった。 医業外収益は2億5,794万円(253.6%)増の3億5,965万円(指定管理料、空調設備等改修工事減収補填を含む)、医業外費用は2,308万円(138.8%)増の3,970万円で、医業外損益は2億3,486万円(276%)増の3億1,995万円の黒字となった。 この結果、台東病院全体の損益は1億3,401万円(563.5%)増の1億1,022万円の黒字となった。						
老健千束	前年度と比べ、事業収益は空調設備等改修工事の病棟閉鎖の影響により、9,024万円(8.6%)減の9億5,916万円、事業費用は1,230万円(1.2%)増の10億573万円で、事業損益は1億254万円(183.2%)減の4,657万円の赤字となった。 事業外収益は9,085万円(376.4%)増の1億1,498万円(指定管理料、空調設備等改修工事減収補填を含む)、事業外費用は2,966万円(141.5%)増の5,062万円で、事業外損益は6,119万円(1924.1%)増の6,437万円の黒字となった。 この結果、老健千束全体の損益は4,136万円(69.9%)減の1,779万円の黒字となった。						

(2)運営の状況

①役割・機能

【台東病院】

区分		R5年度	R6年度	R7年度	前年度比	備考
体制	職員数	142.5人	141.8人	132.1人	△9.7人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	16.9人	16.7人	17.3人	0.6人	
	常勤医師	11.5人	11.5人	12.5人	1.0人	
	非常勤医師	5.4人	5.2人	4.8人	△0.4人	
	看護・介護職員	96.6人	95.1人	83.8人	△11.3人	
	リハビリ職員	29.0人	30.0人	31.0人	1.0人	
入院	病床利用率	87.4%	89.3%	71.6%	△ 17.7	病床利用率＝入院延べ患者数÷延べ病床数×100
	一般	79.4%	80.4%	59.8%	△ 20.6	
	回復期リハ	91.8%	95.0%	90.2%	△ 4.8	
	療養	91.1%	92.5%	64.8%	△ 27.7	
	延べ入院患者数	38,393人	39,111人	31,361人	△ 7,750人	
	50歳代以下	10.7%	3.9%	11.2%	7.3	
	60歳代	9.1%	8.0%	8.5%	0.5	
	70歳代	19.2%	25.0%	23.7%	△ 1.3	
	80歳代	41.3%	39.8%	38.4%	△ 1.4	
	90歳代以上	19.7%	23.3%	18.2%	△ 5.1	
	新入院患者数	1,162人	1,175人	907人	△268人	令和7年度に新たに入院した患者数
	一般	913人	893人	656人	△237人	
	回復期リハ	140人	152人	160人	8人	
	療養	109人	130人	91人	△39人	
	平均在院日数	33.2日	33.2日	34.4日	1.2日	延べ入院患者数÷{(新入院患者数＋退院患者数)÷2}
	一般	14.4日	14.4日	14.4日	0.0日	
	回復期リハ	72.8日	74.7日	72.4日	△2.3日	
	療養	80.3日	77.2日	77.2日	0.0日	
	台東区民の占める割合	86.3%	88.8%	88.7%	△ 0.1	
	回復期リハ病棟の在宅復帰率	89.4%	89.4%	86.7%	△ 2.7	1年間分
外来	延べ患者数	64,435人	62,578人	57,217人	△ 5,361人	
	1日平均患者数	219.9人	213.6人	195.9人	△17.6人	延べ患者数÷外来診療日数
	初診患者数	10,065人	9,129人	8,208人	△921人	初診料を算定した患者数
	新患率	15.6%	14.6%	14.3%	△ 0.3	初診患者数÷延べ患者数×100
	台東区民の占める割合	87.8%	88.2%	88.4%	0.2	
	初期救急患者数	876人	924人	786人	△ 138人	
	救急車受入数	363人	384人	354人	△30人	
	来院患者数	513人	540人	432人	△ 108人	

【老健千束】

区分		R5年度	R6年度	R7年度	前年度比	備考
体制	職員数	87.5人	85.3人	83.3人	△2.0人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	74.0人	72.8人	69.8人	△3.0人	
	リハビリ職員	12.0人	11.0人	12.0人	1.0人	
入所	入所利用率	90.4%	97.0%	84.8%	△ 12.2	延べ入所者数÷延べベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	4.1人	4.1人	3.9人	△0.2人	延べ短期入所者数÷365日(閏年は366日)
	延べ入所者数	49,645人	53,107人	46,429人	△ 6,678人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	5.5%	3.0%	3.7%	0.7	
	70歳代	8.0%	10.5%	13.8%	3.3	
	80歳代	39.9%	41.0%	40.5%	△ 0.5	
	90歳代以上	46.6%	45.5%	42.0%	△ 3.5	
	平均在所日数	226.2日	183.1日	192.3日	9.2日	入所延べ日数÷{(新規入所者数＋退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	13.5%	16.6%	15.8%	△ 0.8	月間平均暦日数÷平均在所日数×100
	台東区民の占める割合	99.9%	92.4%	89.3%	△ 3.1	
通所	在宅復帰率	46.7%	34.6%	28.8%	△ 5.8	退所先が自宅やグループホーム等の割合
	1日あたりの利用者数	30.8人	37.8人	41.8人	4.0人	延べ利用者数÷通所営業日数
通所	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0.0	

【連携等】

区分		R5年度	R6年度	R7年度	前年度比	備考
地域連携相談室	職員数	10.0人	9.0人	10.0人	1.0人	全て常勤換算人数
	社会福祉士	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人	
	支援相談員	3.0人	2.0人	3.0人	1.0人	
	介護支援専門員	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人	
	事務員	1.0人	1.0人	1.0人	0.0人	
	相談件数	2,359件	2,231件	1,839件	△392件	主たる内容により区分
	入院(一般)	913件	893件	656件	△237件	
	入院(回復期リハ)	460件	504件	472件	△32件	
	入院(療養)	209件	233件	199件	△34件	
	入所	601件	423件	348件	△75件	
紹介	通所	176件	178件	164件	△14件	○検査依頼を除く、医師の紹介状(診療情報提供書)を持参した患者数 ○紹介率=(紹介状持参患者数+救急患者数)÷初診料算定患者数 (1,795+354)/(9,189)=23.4%
	入院患者	497人	513人	405人	△108人	
	一般	256人	238人	162人	△76人	
	回復期リハ	140人	148人	159人	11人	
	療養	101人	127人	84人	△43人	
	診療所からの紹介(再掲)	107人	86人	47人	△39人	
	外来患者	804人	769人	712人	△57人	
	病院から	304人	321人	340人	19人	
逆紹介	診療所から	422人	421人	339人	△82人	○診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) ○逆紹介率=診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 2,576/ 9,189= 28.0%
	施設から	78人	27人	33人	6人	
	入院患者	453人	417人	350人	△67人	
	一般	238人	218人	169人	△49人	
	回復期リハ	150人	145人	143人	△2人	
	療養	65人	54人	38人	△16人	
	診療所への逆紹介(再掲)	175人	155人	116人	△39人	
	外来患者	1,454人	1,503人	1,571人	68人	
返送	病院へ	1,046人	1,068人	1,139人	71人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数
	診療所へ	340人	382人	380人	△2人	
	施設へ	16人	13人	12人	△1人	
	宛名なし等	52人	40人	40人	0人	
	入院患者	74人	100人	62人	△38人	
入退院患者・入退所者の経路	一般	37人	56人	21人	△35人	新入院患者の総数は、令和3年度1,036人、令和4年度1,030人、令和5年度1,162人、令和6年度 1,176人、令和7年度907人
	回復期リハ	27人	31人	37人	6人	
	療養	10人	12人	4人	△8人	
	診療所への返送(再掲)	47人	47人	23人	△24人	
	診療所からの紹介	9.2%	7.4%	5.3%	△ 2.1	
	他病院からの紹介	27.9%	31.7%	33.7%	2.0	退院患者の総数は、令和3年度1,056人、令和4年度1,022人、令和5年度1,146人、令和6年度 1,180人、令和7年度916人
	福祉施設等から	8.1%	7.1%	7.1%	0.0	
	老健千束から	6.9%	7.1%	9.7%	2.6	
	自宅へ	38.0%	41.6%	36.8%	△ 4.8	
	診療所への逆紹介	15.2%	13.1%	13.0%	△ 0.1	
	他病院への転院	8.6%	6.0%	9.1%	3.1	新入所者の総数は、令和3年度180人、令和4年度207人、令和5年度223人、令和6年度296人、令和7年度236人
	他病院の外来への紹介	4.2%	5.9%	6.2%	0.3	
	福祉施設等へ	11.5%	10.4%	9.8%	△ 0.6	
	老健千束へ	9.5%	9.3%	11.2%	1.9	
	看取り	12.9%	13.7%	13.9%	0.2	
	自宅から	22.4%	23.0%	22.0%	△ 1.0	退所者の総数は、令和3年度157人、令和4年度210人、令和5年度226人、令和6年度284人、令和7年度278人
	福祉施設等から	1.8%	1.3%	2.1%	0.8	
	台東病院から	48.9%	37.2%	43.7%	6.5	
	他の病院から	26.9%	38.5%	32.2%	△ 6.3	
	自宅へ	18.6%	19.7%	17.6%	△ 2.1	
	福祉施設等へ	33.2%	36.3%	37.4%	1.1	緊急一時病床利用者は、25人
	台東病院へ	35.4%	29.6%	31.7%	2.1	
	他の病院へ	2.6%	2.8%	4.7%	1.9	
	看取り	10.2%	11.6%	8.6%	△ 3.0	
緊急一時病床利用者数		139人	112人	74人	△38人	多職種による検討会の実施件数
退院前カンファレンス件数		97件	88件	62件	△26件	
訪問リハビリテーション延べ利用者数		2,210人	2,139人	2,258人	119人	平成23年2月より実施

②経営分析

区分		R5年度	R6年度	R7年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	100.2%	99.0%	105.3%	6.3	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0.8%	0.8%	11.6%	10.8	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	65.2%	65.0%	70.8%	5.8	職員給与と費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	8.4%	7.9%	8.1%	0.2	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	17.1%	18.0%	14.0%	△ 4.0	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	87.4%	89.3%	71.6%	△ 17.7	入院延べ患者数÷延べ病床数×100	
	1日外来患者数	219.9人	213.6人	195.9人	△17.7人	延べ患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	36,895円	36,933円	39,464円	2,531円	入院収益÷入院延べ患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	8,360円	8,371円	8,315円	△ 56円	外来収益÷外来延べ患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	315,507円	337,194円	271,369円	△65,825円	(入院収益＋外来収益)÷年延べ医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	55,960円	61,101円	56,022円	△5,079円		
	CT	稼働率	62.1%	56.9%	43.5%	△ 13.4	稼働率＝検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100
		検査件数	3,637件	3,333件	2,543件	△790件	
		うち検査依頼受付件数	302件	373件	348件	△25件	
	MRI	稼働率	67.7%	72.6%	61.0%	△ 11.6	稼働率＝検査件数÷(1日あたり検査可能件数(11件)×外来診療日数)×100 ※令和5年度までは、1日あたり検査可能件数12件
		検査件数	2,381件	2,339件	1,960件	△379件	
		うち検査依頼受付件数	503件	495件	510件	15件	
老健千束	事業収支比率	97.2%	105.8%	101.7%	△ 4.1	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	8%	8.0	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与と費比率	67.9%	61.8%	68.3%	6.5	職員給与と費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	12.0%	10.9%	11.8%	0.9	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	90.4%	97.0%	84.8%	△ 12.2	入所延べ患者数÷延べベッド数×100	
	1日通所利用者数	30.8人	37.8人	41.8人	4.0人	延べ利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	15,696円	16,893円	17,133円	240円	入所収益÷入所延べ患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	12,019円	11,088円	11,637円	549	通所収益÷通所延べ患者数	

③計画性・改善状況等

区分		R5年度	R6年度	R7年度	前年度比	備考
講演会		13件	13件	12件	△1件	喫煙防止教室
その他区民向けイベント		7件	10件	9件	△1件	病院祭・認知症カフェ(6件)
投書件数		37件	35件	52件	17件	
	謝意	20件	15件	12件	△3件	
	助言	5件	8件	9件	1件	
	苦情	12件	12件	31件	19件	

主な意見と対応

- 【謝意】 ○ ・翌日に受診をしようと思い電話をしたところ、看護師から「(具合が)お辛ければ先生に(今日診察できるか)確認します、どうぞ」と優しく言っていただき、安心して受診できました。診察も医師、看護師も丁寧に診てくれました。
・ショートステイを利用させていただきました。在宅生活を長い間支えていただいたおかげで、この度在宅で最期を看取ることができました。
・入所したところは寝たきりでしたが、先生方、スタッフの皆様ののおかげで食事が出来て、トイレにも行けるようになりました。心から感謝しています。
- 【助言】 ○ ・診察室に杖を置くものを置いて欲しい。→近隣のクリニックを参考にし、杖置きを設置致しました。
・国際通り側の自動ドアを開けてほしい、安全に病院に入ることができます。→空調設備等改修工事の終了を目途に開ける予定です。
- 【苦情】 ○ ・医師、看護師の言動、態度に対する不満の投書を複数件いただいた。
・特定の整形外科医師(非常勤)の退職に対して、病院の対応に関する不満を複数件いただいた。

④その他

居宅介護支援事業所千束(自主事業)

介護支援専門員は継続して1名体制にて運営し、介護給付管理件数は31.1件/月で令和6年度と同水準で推移した。
令和7年度においても従前通り病院や老健施設併設の強みをいかし、介護サービスのご利用のない区民に対してもスピード感を持った介入を行った。
又、主任介護支援専門員として分科会参加や介護支援専門員に対する指導、助言等の地域活動を行っている。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1)役割・機能の評価

①台東病院が主に高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか

【参考指標】患者実績など	
事業者 評価 A	根拠 令和7年度は空調設備等改修工事の影響もあり、(一般病棟は40床から20床に療養病棟は40床から20床に、回復期病棟は40床継続と順次、工期に連動し病床数削減を行い、最大120床を80床で運営)病床利用率は、前年比17.7ポイント減少し、新入院患者数も前年比△268人と大幅に減少した。 しかし、新入院患者に占めるリハビリテーションの継続や療養目的による他医療機関からの紹介入院割合は2.0ポイント増加し、区内特養や区内介護施設等からの紹介入院割合も前年同割合で推移しているため、病床数の減少はあるものの、地域包括ケアシステムにおける当院の慢性期医療機能を地域に継続して提供を行った。
協議会 評価 A	根拠 令和7年度は空調設備等改修工事の影響により、病床利用率及び新入院患者数は、大幅に減少している。一方で、新入院患者に占めるリハビリテーションの継続や療養を目的とした他医療機関からの紹介入院の割合は増加しており、区内特養や区内介護施設等からの紹介入院割合も前年と同水準で推移している。病床数の減少による影響を受けながらも、高齢者の慢性期医療機能を担う拠点病院としての役割を着実に果たしている点は、高く評価できる。

②台東病院・老人保健施設千束が在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能しているか

【参考指標】入所者実績、リハビリテーション実績など	
事業者 評価 A	根拠 空調設備等改修工事期間中も地域ニーズの高いリハビリテーション機能は継続的に維持し、回復期病棟における新入院患者数は前年比8人増加、在宅復帰率は86.7%で推移した。また、訪問リハビリテーション延べ利用者数は前年比119人増加し、在宅復帰や療養維持機能(身体維持の機能)の支援を行った。 令和6年4月から重症心身障害児(者)短期入所事業に関しては、令和7年度延べ人数37名、延べ利用日数168日(令和6年度 延べ人数10名 延べ利用日数62日)の受入れを行い、令和7年度以降も積極的な受入れを継続事業としている。 老健千束においても、利用者本人および家族の意向を尊重しながら、多職種や関係機関と連携し、在宅復帰・在宅療養支援に取り組んできた。令和7年度は、入所前後訪問件数67件(前年比△15件)、訪問率31.3%(前年比+2.8ポイント)、退所前後訪問件数66件(前年比△84件)、訪問率57.6%(前年比+10.0ポイント)と、空調等設備改修工事に伴う入所者数減少にて訪問件数自体は減少したものの、訪問率の増加を実現した。特に入所前後訪問については、単月訪問率50%を超える月もあり、利用者が住み慣れた自宅環境を入所間もない時期に多職種が知り、ケアにいかすことで、QOL向上にもつながった。また、在宅復帰までの課題を明確にし、居宅介護支援事業所や医療機関、在宅サービス事業者等と情報共有を図りながら、切れ目のない支援体制の構築に取り組むことができた。 これらの取り組みにより、利用者が安心して在宅生活へ移行・継続できるよう支援するとともに、地域包括ケアシステムの一翼を担う施設としての役割を果たせたといえる。
協議会 評価 A	根拠 空調設備等改修工事の影響を受けながらも、地域ニーズの高いリハ機能を継続的に維持し、回復期病棟における新入院患者数は前年より増加している。また、訪問リハ延べ利用者数も増加し、在宅復帰に向けた支援や在宅療養生活の維持に必要な支援を着実に提供している。さらに、老健千束においては、空調等設備改修工事に伴う入所者数減少に伴い、訪問件数は減少したものの、訪問率は向上している。特に入所前後訪問に注力し、利用者の生活環境を早期に把握した上で、多職種によるケアに反映することで、在宅復帰支援や利用者のQOL向上にもつなげている。以上のことから、病院及び老健千束がそれぞれの機能をいかしながら、在宅復帰・在宅療養を支援する施設として着実に役割を果たしていると評価できる。

③医療機関等との連携は適切に行われているか

【参考指標】医療連携の実績など	
事業者 評価 A	根拠 令和4年1月からモデル事業としてスタートした「台東病院在宅療養患者登録制度」は令和8年3月末時点では登録医療機関7医療機関、登録延べ患者数36名、入院患者延べ数は13名で推移した。現状においても、当該制度拡充や情報共有を目的に半年に一度程度、定期的に地区医師会、台東区健康部健康課、台東病院間で検討会を開催し、制度の活用を通じた訪問診療体制の支援策として、後方病床の確保を行っている。また、従前からの永寿総合病院脳卒中科との「城東脳卒中連絡協議会」への参加や台東区病院連絡会議、台東区病院看護部長会議等々、積極的な医療連携を行っている。
協議会 評価 A	根拠 「台東病院在宅療養患者登録制度」は、開始から4年を経過した現在においても、制度の充実や関係機関との情報共有を図るため、地区医師会、区、台東病院による検討会を半年に1回程度開催し、安定的な運営に取り組んでいる。また、地域の訪問診療医を支援するための後方病床の確保も継続して実施している。 さらに、区内病院連絡会議や看護部長会議等へも積極的に参加し、医療機関等との情報共有や連携強化を図っている。以上のことから、地域の医療機関等との連携体制を適切に構築し、地域医療の推進に寄与している点は評価できる。

【備考】

日本医療機能評価機構の病院機能評価について令和元年5月2日に認定を取得後、令和6年5月1日で認定期間が満了となった。今後については検討中であるが、空調設備工事期間の受審は難しいため、当面は地域医療振興協会本部の内部監査や会計監査法人の監査を受けることにより業務の質を高めていく。老健千束では、令和3年2月に第三者評価を受審している。

(2)効率性・経済性の評価

①台東病院・老人保健施設千束の施設・機器等を効率的に活用しているか

【参考指標】経営分析結果(高額医療機器の稼働率)など

事業者 評価 A	根拠 CT、MRI等の高額医療機器の検査件数は外来件数の減少もあり減少した。しかし、近隣医療機関からの検査依頼件数は、地域ニーズに応じて可能な限り当日検査、即日検査結果のレポート報告を継続する事により、CT検査依頼は25件減少の348件、MRI検査依頼は15件増加の510件と例年並みで推移し、高額医療機器の地域での共同使用体制を維持した。 老健千束においては、従前通り多職種により利用検討会議を開催し、利用者の心身の状態に応じて認知症専門棟・一般棟を柔軟に活用し、適切な受け入れを行った。また、空調設備等改修工事(仮設工事・本工事)に伴い7月以降は100床運用に向け、段階的にベッド数を縮小したが、150床(全床)運用であった4月～6月においては利用率98.6%を達成し、年間利用率は84.8%と、ベッド数縮小による影響を最小限にとどめ、高稼働を維持することができた。ショートステイについても、在宅生活を支えるサービスとして積極的に活用。平常時で、月14～15名程度の受入者数に対し、空調設備等改修工事開始までの余剰ベッドをフルに活用した運用で、開始直前の期間は月平均27～28名程度の受入を達成した。 相談室や家族介護者教室の活用、令和7年度末に新電子カルテ、ナースコール、見守りセンサー等を更新、導入し、今後もさらに利用者・家族・関係機関との円滑な情報共有と安全管理の向上を図ることで、安心して在宅生活や施設生活を継続できる環境づくりに努めていく。
協議会 評価 A	根拠 CT、MRI等の高額医療機器については、空調設備等改修工事の影響により、検査件数は減少したものの、近隣医療機関のニーズに応じ、可能な限り当日検査の実施及び、即日の結果レポート報告体制を維持することで利便性の向上に努めている点は、評価できる。 また、老健千束において、多職種による入所前カンファレンスを実施し、利用者の状態に応じて一般療養棟及び認知症専門療養棟を適切に活用している。さらに、空調設備等改修工事に伴う段階的なベッド数削減においても、綿密なシミュレーションと適切なベッドコントロールにより影響を最小限に抑え、高い稼働率を維持している。以上のことから、限られた施設・機器等を有効に活用し、地域の医療・介護ニーズに対応していると評価できる。

②台東病院・老人保健施設千束の一体的な事業運営の効率性は発揮されているか

※医業外及び事業外収支は評価対象外

【参考指標】経営分析結果など

事業者 評価 A	根拠 病院は令和6年度と比べ、医業収益は3億816万円(14.3%)減の18億4,691万円、医業費用は2億730万円(9.2%)減の20億5,663万円で、医業損益は1億85万円(92.6%)増の2億973万円の赤字となった。 老健千束は令和6年度と比べ、事業収益は9,024万円(8.6%)減の9億5,916万円、事業費用は1,230万円(1.2%)増の10億573万円で、事業損益は1億254万円(183.2%)減の4,657万円の赤字となった。一体的な事業運営を目指し、職員採用や各種委員会、研修等の一元的な管理を継続するとともに多様な感染症対策においても、合同で臨時感染対策会議を開催し、対応の徹底と情報共有を行った。 病院、老健千束とも令和6年度と比較し、事業収益が減収となっているが、空調設備等改修工事が大きな要因である。 複合施設の利点をいかし、老健千束の空調設備等改修工事開始時には、看取りや医療依存度の高い入所者を6名、台東病院療養型病棟で一時受入れを行い、ケアミックスの特性を最大限に活用し、利用者の負担軽減を行った。
協議会 評価 A	根拠 病院・老健千束ともに、空調設備等改修工事の影響により、医業・事業収益が大きく減少している。 一方で開設以来初めてとなる病床制限を伴う大規模改修工事への対応においては、病院と老健が一体となった複合施設の特性をいかし、老健千束の改修工事期間中には、看取りや医療依存度の高い入所者を台東病院の療養病棟で一時的に受け入れるなど、利用者の負担軽減に向けた柔軟な対応を実施した。以上のことから、病院と老健が相互に機能を補完しながら、複合施設の強みを発揮し、効率的かつ一体的な事業運営に取り組んでいる点は、評価できる。

(3)計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

事業者 評価 A	根拠	前年度意見 ○重症心身障害児(者)の短期入所事業について 受入数増の要望については、大幅な増加にはなっていないが、引き続き空床を利用した受入に努めている。 ○老健千束で実施しているHIV陽性者の入所受入について 引き続き受入の要請があればニーズに応じていくように体制を整えている。 ○薬剤師レジデントの継続について 令和7年度においても法人内の急性期病院等と連携し受け入れており、令和8年度も6月から1名受け入れている。 ○BCPについて 改定中であったBCPについては、病院及び老健千束ともに完成し、BCPに基づいた訓練を定期的実施している。
協議会 評価 A	根拠	前年度の運営協議会で意見のあったBCPについては、改定が完了するとともに、大規模災害を想定した訓練をBCPに基づき実施するなど、実効性の確保に取り組んでいる点は、区立病院として評価できる。 また、重症心身障害児(者)の短期入所事業については、空調設備等改修工事による制約がある中においても、空床を活用した受入に継続的に取り組み、事業を実施している。以上のことから、前年度の運営協議会の意見を踏まえ、必要な改善や取組を着実に進め、病院・老健の運営に反映している点は、評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営や、利用者の満足度向上に活かしているか

【参考指標】利用者からの主な意見と対応など

事業者 評価 A	根拠	○患者様からの投書 令和6年度よりも17件増加し、苦情が19件増となっている。苦情増加の要因としては特定の整形外科医(非常勤)の退職に対して診療継続を希望するのものが多かった。投書の内容は、引き続き、幹部会議で報告、「みなさまのお声委員会」で対応を検討している。回答を掲示すべきものについては、掲示し、個別に回答が必要な場合は、個別の対応をしている。 ○患者満足度調査 入院患者に対する調査で母数が減少したが、「5」と「4」の評価割合は、74%台で令和6年度とほぼ変わらない評価となっている。母数が減少した要因としては、紙によるアンケート用紙を用意しなかったことが推察される。
協議会 評価 A	根拠	投書件数は、大幅に増加しているものの、一過性な事由によるものであり、その他の患者から寄せられた要望や意見については、引き続き適切に対応している。特に、診察室への杖置き設置に関する要望については、近隣医療機関の取組を参考にしながら迅速に対応するなど、利用者の声を具体的な改善につなげ、患者の利便性や満足度の向上に努めている点は評価できる。以上のことから、利用者や区民から寄せられた意見を適切に把握し、病院・老健千束の運営改善やサービス向上に反映していると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設として、他機関では対応が困難なケースの受入れや区民向けに特化した事業等、採算性にとらわれず事業を実施しているか

事業者 評価 A	根拠	令和6年度と同様に台東区高齢福祉課や地域包括支援センターからの依頼を受けて虐待ケースや身寄りのない高齢者の区長申立による成年後見人等の選任協力等、病院、老健千束が協働し各フロアの機能を最大限活用し支援の継続を行っている。 また、令和6年度からは重症心身障害児(者)短期入所事業を開始し、令和7年度も空床を利用し受け入れを継続している。ご家族様から職員対応や環境について要望が出ている点については、多職種による振り返りの会議で検討をしている。 老健千束としては、区立施設としての役割を踏まえ、要介護度や医療依存度の高い利用者、身寄りがない方や経済的課題を抱える方など、他機関では受け入れが困難なケースについても、高齢福祉課と協働し、積極的な受け入れに努めた。
協議会 評価 A	根拠	虐待ケースや身寄りのない高齢者に対する区長申立による成年後見人選任の協力など、病院と老健千束が連携し、支援を継続している。特に、身寄りのない高齢者の入院については、受け入れに際して様々な調整が必要となる中、区立病院として、積極的に対応していることは、評価できる。 また、重症心身障害児(者)短期入所事業についても、継続して実施し、利用者家族からの要望に対しては、障害特性を踏まえた対応を検討するなど、利用者へ寄り添った支援に努めている。以上のことから、他機関では対応が困難なケースの受入や区民向け事業を継続的に実施し、採算性のみでは捉えられない公的な役割を果たしていると評価できる。

④医療従事者の安定的な確保、職員の能力開発や職場の人材育成、組織の持続的成長や環境の変化への適応など、理念を実現する取組を推進しているか

事業者評価 A	根拠 ○医療従事者の安定的な確保 例年と同様、看護師や介護士確保のため、学校訪問の実施や就職セミナーに参加する等、新卒採用を含め人材確保の取組、介護領域における外国人採用も継続的に行っている。 また、理学療法士、作業療法士の確保のため、都内のみならず地方の大学への学校訪問を実施している。事務職については、専門学校と連携して採用活動を行っている。 しかしながら、職種に関わらず採用困難になっている状況が強まっており、特に翌年度の看護師新卒採用には難渋している。また、事務職は応募すら減少しており、予定している採用人数に至らず、本部からの研修目的の配属も無く、職員体制を維持するのが困難な状況である。 ○人材育成等 新規採用時から複数年の研修計画を部門毎に作成することとし、多職種で連携した教育に取り組んでいる。特に、薬剤師については、他施設と共同し毎年新卒者数名、2年間の薬剤師レジデントプログラムを通して高度急性期から慢性期の教育を行っている。 ○会議体等の活用 第2水曜日に開催する事業推進会議、毎月一日の全体朝礼では、台東区内での他医療機関、他施設との連携、経営状況、運営状況に関して共有し、当施設の現在地を知るような機会となっている。健康推進委員会では、食に関すること、近隣美化に関することを取り上げ、参加することで人材育成に役立てるようにしている。ここ最近では大江戸清掃隊にも参加させていただいている。 ○地域との関わりを通じての施設役割の理解 地域で行われている祭やイベントにおいて、町会・病院相互に参加の機会を持ち、地域との関わりを大切に、台東区の文化を学ぶ機会を作っている。
協議会評価 A	根拠 看護師、介護士、理学療法士等の専門職の安定的な確保に向け、学校訪問や就職セミナーへの参加を継続するとともに、介護領域における外国人人材の採用にも取り組んでいる。一方で、医療・介護分野全体において人材確保が困難になる中、専門職に加え事務職を含む幅広い職種で採用環境は厳しさを増している。そのような状況においても、引き続き採用活動を強化するとともに、限られた人員で工夫しながら病院の維持に努めている点は評価できる。 また、職員の能力向上や人材育成の観点では、従来から実施している病院周辺の清掃活動に加え、新たに隣接する保育園の園児とともに清掃活動を行うなど、地域との交流を深める取組を実施している。職員が地域活動に積極的に参加することで、地域とのつながりを育むとともに、豊かな人間性や多様な視点を持った人材の育成につながっている点は評価できる。 以上のことから、人材の育成に向けた取組を継続するとともに、地域との関わりを通じた組織の持続的な成長や理念の実現に取り組んでいると評価できる。

5 総合評価等

【総合評価】

令和7年度は、台東病院及び老健千束において、空調設備等改修工事の影響により、病床利用率や新入院患者数、医業、事業収益が大きく減少するなど、運営面で大きな制約を受ける年度となった。

○台東病院について

そのような状況においても台東病院では、地域ニーズの高いリハ機能を継続して維持するとともに、他医療機関からの紹介入院の受入や訪問リハの提供を通じて、在宅復帰支援や在宅療養生活の維持に必要な機能を果たしている。

また、受け入れに際して、様々な調整が必要となる高齢者の入院や重症心身障害児(者)短期入所受入事業についても継続して実施し、障害特性を踏まえたきめ細やかな対応に努めるなど、採算性のみでは捉えられない区立病院としての役割を果たしていると評価できる。

○老人保健施設千束について

老健千束においても、改修工事による制約の中、多職種による入所前後訪問やカンファレンスを通じて、利用者の生活環境や状態を踏まえたケアを実践し、在宅復帰及び在宅療養支援の向上に取り組んでいる。また、段階的なベッド数削減に際しても、綿密なシミュレーションと適切なベッドコントロールにより、高い稼働率を維持し、地域の介護ニーズに応えている点は評価できる。

さらに、病院と老健が一体となった複合施設の特性をいかし、改修工事期間中には、相互に機能を補完することで、利用者への影響を最小限に抑える取組を実施しており、一体的かつ効率的な事業運営が図られている。

○人材の確保・育成について

人材面では、専門職をはじめ幅広い職種で確保が困難となる中、学校訪問や就職セミナーへの参加、外国人材の採用など、安定した職員体制の確保に向けた取組を継続している。また、地域活動への参加を通じて、職員の地域とのつながりを深め、人材育成につなげている点も評価できる。

以上のことから、令和7年度は、改修工事による厳しい運営環境の中にあつたものの、台東病院及び老健千束が、それぞれの専門機能を維持するとともに、複合施設としての強みをいかしながら、区立施設として求められる医療・介護サービスを継続的に提供している点は高く評価できる。今後も、安定した職員体制の確保や地域ニーズを踏まえた機能の充実に取り組み、区民の安全・安心な生活を支える施設としての役割を果たすことを期待する。

【その他意見】

○重症心身障害児(者)の短期入所事業については、利用者家族の要望や障害特性を踏まえた対応など、事業継続にあたって苦労することが多いと思うが、区民にとって重要な事業であるため、引き続き安定的な事業実施に努めてもらいたい。

○公的施設は、困難ケースの受入を担うことが多いことから、その役割を十分に発揮するためにも、関係機関による支援体制や連携強化をすることが重要である。